

国際教育交流推進ワーキング・グループを立ち上げました

北海道大学は、文部科学省の平成 20 年度大学教育の国際化加速プログラム〔国際共同・連携支援（総合戦略型）〕に採択された、「国際教育連携を加速させる総合支援機能の構築」事業に取り組んでいます。その取組の一環として、平成 20 年 12 月に国際教育交流推進ワーキング・グループを立ち上げました。

このワーキング・グループは、教育改革室と国際交流室という二つの総長室が共同で立ち上げたグループです。教育システムの国際的共通性を向上させ、学生や研究者の国際流動性を高めるべく、海外の大学とのダブルディグリー・プログラムや単位互換に関し、本学が抱える課題を明確にし、解決策を提案することをねらいとしています。

第一回の会議では、本事業で雇用したプログラム・コーディネーターが、エラスムス・ムンドゥスと ECTS (European Credit Transfer System)の概要ならびに、他大学におけるダブルディグリーの導入状況について説明をしました。そして 10 人のメンバーと共に、平成 20 年度中に実施する、海外・国内大学の事例調査のあり方や、その後の事業活動について話し合いました。

第二回の会議では、この事例調査の結果を踏まえて、ダブルディグリー・プログラムの実施に向けた基本方針を協議する予定です。

北海道大学「国際教育連携を加速させる総合支援機能の構築」事業

北海道大学では、「持続可能な開発」の実現に資する教育と研究の世界的拠点化を目指して、2005 年に国際戦略を開始し、海外大学との研究連携を促進させる全学的支援機能の強化という点で、確実な成果を上げてきた。この成功手法を活用し、本取組では、「持続可能な開発」に関しこれまで展開してきた教育の国際化の取組の中から、グッドプラクティスをいくつか取り上げ、これらを全学的な支援によって集中的に深化・拡大させるプロセスを通じて、3 年後には国際教育連携の全学的かつ総合的な支援機能を確立し定着させる。特徴としては、3 つの異なる教育コンソーシアムの教育連携体系を互いに参照比較しつつ、異なる単位制度を持つ大学との共同授業やダブルディグリーを実現させることで、教育システムの国際的共通性を一気に向上させ、学生・研究者の国際流動性ならびに国際競争力を短期間で飛躍的に強化する。